

平成 28 年度入学試験問題

外国人留学生

小 論 文

注 意

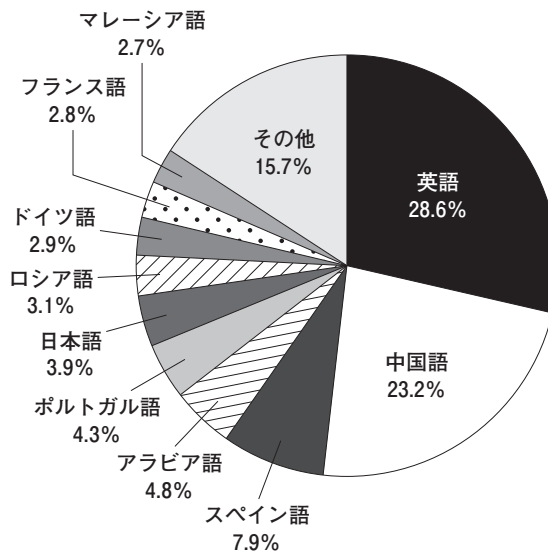
1. 指示があるまで、手を触れないこと。
2. 指示に従って、解答用紙に受験番号および氏名をはっきりと記入すること。
3. 解答は、解答用紙の指定された箇所に、横書きで記入すること。
4. 問題冊子は 4 ページ、解答用紙は 1 枚である。もし、問題冊子の落丁、乱丁および解答用紙の汚れなどがあれば、ただちに申し出ること。
5. 問題冊子は持ち帰ること。

外国人留学生入学試験問題

次の文章を読んで、設問に答えなさい。解答は、解答用紙に記入すること。

図1は、インターネット上における主要言語の割合を、言語別に示したものである。

図1 インターネット上の主要言語トップ10
+その他（全体に占める比率）
（2013年12月末時点）



出典：Internet World Stats より資料作成

つまり、インターネットの中で、何語によって記述がなされているのか、についての割合を示したものだが、 年末の最新データによれば、日本語は堂々、世界第位（%）のポジションにある。

日本語話者はほぼそのまま日本の人口と同じと考えてよいので、約1億3千万人だ。しかし、日本語で書かれたり発せられる「インターネットの声や反応」は、約2億5千万人の話者を誇る語（4.3%）に匹敵するのだ。

日本語話者とほぼ同じ規模となる語（1億人=2.9%）とくらべても、ネット世界での日本語の存在感は大きい。

日本語の言語人口は世界で第 11 番目程度とされるが、インターネットの世界では第 6 位——。しかし、ネット空間で言葉を発する人々の割合は、英語、ドイツ語圏の国の人々よりも、圧倒的（3分の1から5分の1）に少ない。

この事実から導き出せることは何か。

それは、日本のインターネット空間は、「少数の、熱心なユーザーによる声や反応によって占められがちであり、なおかつ、一部のアクティブで熱心なユーザーから発せられる声や反応によって、全体の反応数がかさあげされている」ということだ。

要するに、「日本のネット空間は、少数のネットユーザーによる声や反応が、諸外国とくらべて、異様に際立っている」ということなのだ。

意外な、^(A)「日本特有」のネット空間の姿が浮かびあがってきたと思う。

日本のインターネット空間は、「全体を代表している」などというのは嘘で、少数のユーザーの声や反応がとりわけ目立つ「いびつ」な世界であることが、おわかりいただけたらどうか。

当然そこでの声や^①反応は、「世論の一部が漏れだしてきたもの」などではない。

しかし、^(B)いったい、どうして日本だけがこのような独特の「ネットの構造」を生み出すようになったのか。

まず第一には、日本人の国民性が大きく作用しているように思う。

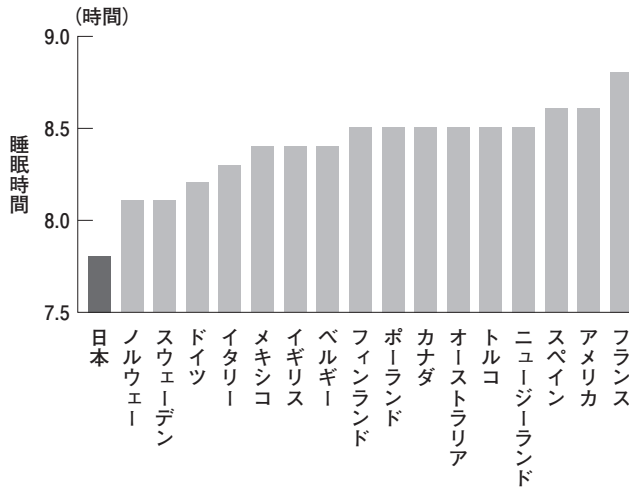
つまりそれは「もの言わぬ^②沈黙の民」という日本人の性質で、自分の主張や感情を、なかなか表に出したがるらないという伝統的な国民性のなせる業だ、ということだ。

もう一つは、日本のインターネット利用者の多くが「ROM 専」なのは、日本人の「時間の使い方」が影響している。^(注)

ソーシャルメディアは閲覧するが、書き込みは熱心に行わない、というのは、単純に「そんな暇がない」ということとイコールなのではないだろうか。

図 2 は、国別の睡眠時間の長さを比較した経済協力開発機構（OECD）による調査結果である。

図2 国別の睡眠時間



出典：経済協力開発機構のデータより作成

欧米などの主要国と日本の比較だが、日本人は睡眠時間が短く、平均で8時間を下まわっている。英・仏・伊・豪など、主要先進国とくらべても短い。

まさしく「眠らない国・日本」なのだが、その理由はなぜだろうか。

それは第一に、長引く不況の中、「サービス残業」などに代表される長時間労働の悪弊があらゆる業態で横行していることだ。

(中略)

またさらに、日本が戦後、国策として推進してきた「持ち家政策」により、土地価格の安い郊外に分譲住宅が求められるようになり、「遠・高・狭」（遠い、高い、狭い）という言葉に示されるように、大都市圏では住宅と職場が不自然に離れ、通勤時間が長大となっていること、なども原因の一つだろう。

毎日の通勤時間によって時間が③圧迫されることにより、「ネットをのぞく時間」はあるものの、「発信を行う時間」をつくるのが難しくなっているのだ。

よく考えなくてもわかることだが、ネットを閲覧するという行為は、スマートフォンなど移動体通信の加速度的な普及により、誰しもが容易に行えるようになった。

電車の中の光景を思い出してほしい。老若男女を問わず、スマホをいじっている。

ところが、その中でSNSやブログで自らの主張の発信を行う人間、というのはほど

れほどいるだろうか。少なくとも電車の中で、自身のブログを更新している人に、私は出会ったことがない。

SNS やブログや動画のコメントには、当然のことながらログインが必要だ。投稿する内容は、当然、④ 吟味し、考えなければならない。圧倒的多数のインターネットの閲覧と、投稿者の割合が⑤ 乖離するのは、時間が圧迫されている日本人の生活にあって、当然の現象だったのである。

【出典】古谷経衡『インターネットは永遠にリアル社会を超えられない』

(ディスカヴァー携書、2015) 54～60 頁

※設問作成にあたり、文章の一部を加工しました。

(注) ROM 専： インターネットの世界で、投稿や書き込みを行わず、閲覧するだけのユーザーのこと。

設問 1 ①から⑤の漢字の読み方をひらがなで書きなさい。

設問 2 から に適切な数、または国名を書きなさい。

設問 3 (A)とは何か、40 字以内で説明しなさい。

設問 4 (B)の理由を 100 字以内でまとめなさい。

設問 5 本文を踏まえた上で、あなたの出身国のネット社会の特徴を国民性とライフ・スタイルを中心に 500 字以内で述べなさい。